

**黒瀬直宏**  
(クロちゃん先生)  
が迫る  
中小企業を  
働きがいのある  
職場に

# 人と人とのつながりを力にする 建物リノベーション専門企業(前編)

(株)ストラクス 代表取締役 **山本 克己氏(千葉)**

黒瀬直宏・嘉悦大学元教授(特定非営利活動法人アジア中小企業協力機構理事長)が、中小企業の働きがいキーワードに魅力ある中小企業を取材し、紹介する本連載。今回は、(株)ストラクス(山本克己代表取締役、千葉同友会会員)の取り組み(前編)を紹介しします。



## 改修工事に必要な独自のノウハウ

(株)ストラクスは1995年の創業当時から建物の改修工事を専門としています。古くなった建物の外装や水回りなどの老朽化した機能・景観の現状回復だけでなく、間取り、デザイン、バリアフリー化など新たな機能を加え、建物の価値を高めるリノベーションに力を入れています。

改修工事には新築にはない独自のノウハウが必要です。新築工事の場合、使用者がいない状態で作業しますが、改修工事だと使用者や隣接する居住者がいる中



施工管理業務中の様子

で作業をします。そのため、作業員が入り出る音や作業する騒音、材料から出る臭いなどを防ぐ作業環境をつくらなくてはなりません。また、標準化された工法を適用すればよい新築と違い、経験に基づく判断が重要です。例えば、床張り工事では新築と違い、床はがしから行いますが、これについては案件ごとに工数も変わり、経験に裏付けられた施工計画が必要で(その分、競争に左右されない利益が得られる機会も少なくありません)。

山本社長は旧勤務先での経験から改修工事のノウハウを得ていましたが、創業当時は、新築工事の片手間に改修工事を請け負う企業が多く、このようなノウハウを持つ企業には希少価値がありました。しかも、ストラクスは特定の工程だけでなく、豊富な協力事業者を有しているため、塗装、内装、水回り、電気関係等々、幅広く仕事をこなすことができ、発注者には総合的に発注できる便利

## 独立企業への前進

山本社長は以前営業部長として勤務していた建設会社から独立、当初はもっぱら地元工務店から仕事をもらっていました。現在の発注者別の売り上げは、ゼネコン40%、地元工務店20%、役所関係25%、民間顧客からの受注15%です。ゼネコン、工務店との取引はいわゆる下請けとしての受注になります。役所関係と民間顧客からは直接受注で、両者合わせて40%に達しています。現在、民間顧客との取引が増加しており、ストラクスは独立企業へ前進していると言えます。ただ、これに対し山本社長は異を唱えます。「同友会も脱下請けを勧めてい

るが、下請け受注は営業に必要というメリットがある。また、この下請け企業なくして取引先はやっていけないという必要不可欠な存在になれば、価格決定権は下請け企業にあるため、下請けとしての成長もある。」



稲毛の浜で清掃のボランティア活動を行いました

## 人と人とのつながりを大事にする

ストラクスの経営理念は「人と人との懸け橋となり、価値ある未来を創造する」です。この理念のとおり、同社は人とのつながりで創業し、発展してきました。取引先の開拓には山本社長が旧勤務先での営業部長として培った人脈が生かされました。山本社長は旧勤務先に一生勤めるつもりでしたが、会社から自分の思いとは違う行動を命じられるようになり、独立することになりました。退職したのち、関係各所へ改めて開業のあいさつに行くと、異口同音に「馬鹿だな」と言われま

した。この時はバブル景気の崩壊後です。不況に突入していたからです。しかし、「仕事がないだろう」と、30万円、50万円と小さな仕事をくれる人が現れました。建設業界は企業同士より人同士のつながりの方が濃い世界なのです。山本社長は営業マンでしたから建築工事のスキルはなく、協力業者が必要でした。以前から親しかった人が、12人も集まった上、社員も集まってくれました。はじめは個人として活動し

ていましたが、旧勤務先の部下と一緒にやりたいと合流し、95年に2人で(株)ストラクスを立ち上げました(97年株式会社化)。その後さらに旧勤務先から3人加わり、山本社長を含め社員5人が旧勤務先出身となりました。ストラクスの現在の年商は38億円(2023年5月期)ですが、初年度の売り上げは1億円、2000年ごろには5億円になりました。好調な売り上げの要因は、改修工事の専門企業が少なかったことのほか、社員がみな気心が知れている間柄なので、とてもチームワークがよかったこともあげられます。

会社概要

設立：1995年9月20日

事業内容：建築物の改修・新築工事に  
関わる施工管理

従業員数：54名

URL：https://www.stracks.co.jp/

## 新版 共に育つ 1・2・3・4・5

### 1 人が育つことの本質と 同友会の社員教育

「教育とは何か〜学校・社会・企業すべてに共通する人育の本質」大田堯・東京大学名誉教授、「同友会の社員教育活動」大久保尚孝・初代中同協社員教育委員長(北海道同友会元専務理事)を収録。  
A5判、全57ページ、550円(税込)

### 3 「労使見解」の 正しい理解と実践を

2011年全国共同求人交流会赤石義博氏の問題提起、小暮恭一・中同協共同求人委員長と梶谷俊介・中同協社員教育委員長の対談、2017年中同協企業環境研究センター特別調査より植田浩史氏の報告を収録。  
A5判、全51ページ、550円(税込)

### 2 働くことの意義と成長、 労使見解と共育の関係を考える

「私たちの経営に労使見解をいかにするために」梶谷俊介・中同協社員教育委員長、「人格の発達と労働の役割」二宮厚美・神戸大学名誉教授を収録。  
A5判、全57ページ、550円(税込)

### 4 一人ひとりが輝く企業に

「生きること、働くこと、学ぶこと」植田健男氏(花園大学教授、名古屋大学名誉教授)の講演、「人を生かす経営の総合実践で魅力ある企業づくり」福留進一氏(株現場サポート、鹿児島同友会副代表理事)の企業実践報告を収録。  
A5判、全55ページ、550円(税込)

### 5 「人を生かす経営」の実践で、 働きがいのある企業づくりを

2022年「第7回人を生かす経営全国交流会inとくしま」から問題提起と4委員長のパネルディスカッション、「働きがいを目指す中小企業、そのマネジメント」黒瀬直宏氏(アジア中小企業協力機構理事長、元嘉悦大学教授)の3本を収録。

A5判、全84ページ、550円(税込)

お問い合わせは所属の同友会事務局まで